



消防避難訓練を行いました

6月24日(水)、屋代公民館では会館利用者の皆さんと消防避難訓練を行いました。避難後の消火訓練では消火器の使用方法を学び、火点に向け、本番さながらに消火活動を行いました。

特集 語り継ぎたい
わたしの戦争体験

《主な掲載記事》

各館の活動報告……………	2
特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験……	3～5
成人講座開講案内……………	6～7
もっと知りたいふるさと……………	8

各館の活動報告

消防避難訓練を行いました

屋代公民館

屋代公民館では、毎年2回様々な災害を想定し、消防避難訓練を行っています。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のために訓練が延期となっていました。公民館活動が再開したため、日ごろからサークル活動等で利用している「紀英会」の皆さんにご協力いただき、一階調理室からの出火を想定した避難訓練を実施しました。避難先では手を広げた範囲で何人まで避難できるかを確認しました。

また、利用者の皆さんと非常口の再確認を行い、水消火器による消火訓練も行いました。火災や災害はいつ起きるかわかりません。職員の人数も限られており、火災発生時に、冷静かつ敏速な行動と対応を



「紀英会」の皆さん

していくために、災害を想定した避難訓練は、必要不可欠であると改めて感じました。普段から利用者の皆さんとの信頼関係を築いていくことが災害時に連携を取るうえで大切であると痛感しました。

戸倉上山田ヘルスセンター 思い出展

戸倉公民館

戸倉上山田ヘルスセンター(旧白鳥園)の歴史を調査している戸倉公民館専門部の関富和さんが、令和2年2月28日から7月24日まで「戸倉上山田ヘルスセンター 思い出展」を戸倉創造館ロビー創造ギャラリーで開催しました。

戸倉上山田ヘルスセンターは昭和34年から2年間だけ開設されました。遊園地や動物園・スポーツランド等の複合リゾート施設で、岡本太郎の巨大な彫刻の「無籍動物(大(小))」が遊園地中央に設置されています。この「無籍動物(大)」は、岡本太郎のアトリエで粘土原型・型枠を制作し、現地でコンクリートを流し込み完成させました。しかし、松代群発地震による影響で土台や足元が傷み、安全性のため、最終的には昭和

41年から42年に解体されたと推測されています。戸倉上山田ヘルスセンターには、50メートルがあり、戸倉地域で初めて水泳大会が開催されるほど大変賑わいました。



遊園地に設置された「無籍動物(大)」(写真提供: 岡本太郎記念館)

令和3年 千曲市成人式のお知らせ

日時

一日目: 令和3年1月9日(土)

二日目: 令和3年1月10日(日)

受付 午後1時~(両日共) 式典 午後1時30分~(両日共)

会場 上山田文化会館 ホール

成人式対象者

平成12年4月2日から平成13年4月1日の間に生まれた市内に住所がある人と、市内の小学校に在籍した人です。

対象地区

一日目: 屋代小・東小・治田小・八幡小

二日目: 埴生小・戸倉小・更級小・五加小・上山田小

*対象者には11月中旬に案内状を送付します。

問い合わせ先

上山田公民館(成人式当番館) TEL 026-276-5842
または、最寄りの公民館まで。

短詩型文学祭作品募集

千曲市と坂城町で構成する更埴公民館運営協議会では、第25回更埴地区短詩型文学祭を開催します。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため表彰式は行いませんので、ご了承ください。応募要領と投稿用紙は最寄りの公民館に用意してあります。入賞者には、表彰状と記念品を贈呈しますので、奮ってご投稿ください。

【募集期間】 7月1日(水)~8月31日(月) 【募集部門】 短歌・俳句・川柳・現代詩

【投稿料】 応募用紙一枚につき400円(小・中・高校生は無料) 【投稿先】 各公民館

令和2年度 地区市民運動会 中止のお知らせ

各地区で開催予定の市民運動会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市公民館運営協議会で協議・検討した結果、市内統一して中止決定となりました。皆様には何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

地区	開催予定日
屋代地区	9月20日(日)
森地区	9月20日(日)
倉科地区	10月4日(日)
雨宮3地区	9月13日(日)
埴生地区	9月27日(日)
稻荷山地区	10月4日(日)
桑原地区	10月11日(日)
八幡地区	10月4日(日)
戸倉地区	10月4日(日)
上山田地区	9月27日(日)

特集

語り継ぎたいわたしの戦争体験

この特集の記事は、戦中・戦後の苦難な時代を生き抜いた方々に、体験された多くのことを文章にまとめていただいたものです。

戦争の悲惨さを、戦争を知らない世代に語り継いで行く契機となれば、と始めたこの特集に、今年も多くの方々から原稿をお寄せいただきました。感謝を申し上げますとともに、戦争体験記をとおり、戦争の悲惨な真実を次の時代へ語り継いでいただければ幸いです。

終戦日に思う

戦歌の歌詞に涙する

稲荷山 宮本 はつ子

年の離れた兄3人は戦地へ行った。7ツボタンに角帽、白い手袋、警棒を下げて商船大学に行き、当時は格好のいい容姿だった。帰省した時に村の人が見に来て敬礼したのを覚えている。

長兄は赤紙一枚で深く戦地へ。ジャワ島、スマトラ島へと奥地に行き戦死。父は長兄の訃報の封筒を受け取り、縄打ちの手を止め、兄の名前を呼んで「あゝ、御国の為になつたんだな・・・」と後ろを向き大きな涙を流したことは忘れられない。役場の方々が深々と頭を下げていた。見送る父の姿は脳裏から離れない。戦地から帰られた方が、兄から手渡された手紙を持ってきてくれた。父が読んでくれた中に「今日あつて明日ない命。小生は頑張る。くれぐれも妹をよろしく」と記されていたという。当時私は5年

戦後終わらず

稲荷山 山岸 良男

生、田畑が多く両親と守るのに精一杯。村からは勤労奉仕の方を大勢回してもらった。田畑への案内も大変だった。私が学校から帰るのを待つていて、鉛筆を持つと叱られ「早く鎌を持って田畑に行くように」と言われた。

久し振りに実家を尋ねるとシンガーソングライターの清水まなぶさんが来ていた。清水さんは役場の紹介で「全市町村の戦争体験」を追いかけ、77の記憶を本にしていた。私は、当時の思い出を夢中で話した。一堅い土の小学校の校庭を掘り、さつまいもを植えて食事にしたこと。実技で学び得た道具の使い方、作物の出来る過程等がテストだったこと。如何に早く、そして、出来栄がいいかの競争だった。先生にいつも誉められたこと。

現在は毎日、衣・食・住に感謝する日々。長寿国になり、平和に生活を送ることが出来るのも、過去に凄まじい犠牲になった方々が土台にあることを忘れてはならない。

子どもの頃、仏壇の引き出し奥に封筒があり、恐る恐る開いてみると爪と頭髮が油紙に包まれていました。父が出征前に死を覚悟し遺骨の代わりに残していったのだろう。

父は昭和19年11月、仏領インドシナ(ベトナム)沖にて輸送船が米軍の魚雷を受け、沈没し、死去。享年32歳でした。また、父の弟も昭和19年5月北太平洋にて戦死。享年23歳でした。

私は昭和18年10月生まれ、父の顔は知りません。

「人は死んだ親の夢を見る」というけれど所詮私には無理なのです。母も病気で父の後を追いました。残された家族は祖父母、叔母そして私です。祖父母は私が小学生になつても、父の遺影写真はありながら戦死したことは無言のままでした。ですから幼少の頃から「父ちゃん」なのか「じいちゃん」なのか、訳の分からないまま過ごしてきました。それでも学校に通い始めた頃、よその家の家族と違うことに気づき、「父ちゃん」と「じいちゃん」の違いがわかりました。

いつだったか先生から「お父さんについて作文を書きなさい」と宿題が出ましたが「お父さんはいません」と言えませんでした。鉛筆は持つけれど書き様が見つからず未提出でした。後日作文の発表会があり、皆はお父さんとの楽しい思い出を語りましたが、私はただ聞くのみでした。

戦後、残された家族はどの家でも苦しく惨めな生活でした。我が家も過酷な時代を祖父母、叔母が私を育てるため苦境を乗り越えてくれたのです。お金が無いのは充分わかっていました。これも欲しいとわがままな子どもでした。

幸い隣のおじさんが花火工場に勤めていたのでお願いして内職を世話して頂きました。色和紙に火薬を少し入れ和紙を燃ると線香花火になります。100本作れば10円はうれしかったです。

私は現在、稲荷山と桑原地区の遺族会の役員ですが、記録では昭和56年頃139名おられた会員が、高齢化と他界により現在は24名です。毎年千曲市遺族会の仲間と共に靖国神社の参拝には欠かさず参加し

ていますが、軍国教育を鼓舞し、真実を隠した情報を与え、更にはアジア諸国を侵略し他国民にまで耐え難い犠牲を与え、戦争へと導いた方々も、祭神として靖国神社に合祀されています。

「戦争は国策として正しかった」と正当化する人もいますが、では戦争責任はどうなるのでしょうか。どう理解すればいいのでしょうか。私達は既に80歳前後になりました。戦争の惨めさや哀しさを知る語り部は古い、他界されつつあります。

2度と戦争が繰り返されないことを願うのみです。(台筆)

我が父の戦争体験

屋代 安藤 秀一

満蒙開拓団は国策で、中国満州を日本の領土と位置づけ多くの国民を送り出し、悲劇を作り出しました。

全国で最も多く送り出したのは長野県で、当時の大村県知事は、国策としての満州移民を先駆的に強硬に推し進めました。県の拓務課職員が中心となり市町村長及び教育会へ移民目標数値を振り分け、締め付けた結果、長野県がダントツ1位となりました。戦後、無責任にも県は拓務課の組織を解体し、書類等は

廃棄し責任の所在もあいまいのままです。

昭和15年9月、埴科町村会では、県拓務課の強引な指導の下、昭和15年を建設年度として3か年で300戸を満州開拓団に送り出す計画を立てて団員を募集しましたが、予定数には達しませんでした。

父貞雄は明治45年松代町清野で生まれ、更級農学校・県農業大学校を卒業後、杭瀬下村農協の農業技術員として勤めておりました。

昭和15年12月、杭瀬下村長と農協組合長の2人からの推挙により、埴科開拓団の副団長の1人として、半ば強引に引き受けさせられたそうです。

父は既に結婚しており、産婆の妻（私の義母）と子どもは3人（長女・長男・次男）。義母は現在の安定した生活を捨ててまでと最後まで抵抗したようですが、同伴が義務付けられていたため、しぶしぶ承諾したと聞いております。

同年12月25日に埴科郷幹部の正副団長以下3人が茨城県鯉淵の幹部訓練所に入所、戦況は悪化の一途をたどるなか、現地的情勢がつかめず苛立たしさに明け暮れたそうです。

昭和16年3月1日、埴科郷に参画する団員達のために、屋代駅前前の八十二銀行の庭で祈願壮行式が盛大に挙行され、父は妻子を連れて故郷を離れました。この時同道した23人

は、以後深い縁につながる仲間でありました。

関釜連絡船（下関と釜山を結ぶ）北朝鮮経由の旅は、京城・牡丹江・東安・宝清で泊まり3月6日に無事入植しました。

埴科郷は、昭和17年7月には、100人を超える大所帯となりました。開拓団の先遣隊が前年から建物の建築と開墾に力を入れておりましたが、収穫は皆無であつたそうです。

今後の方針として農耕に重点を置くこととし、2年目からは教育と医療にも力を入れた。製材所・鉄工所・住宅建築と環境整備は進みました。

農耕についても、水田4^ハ、畑30^ハを耕作し、いずれも順調に計画は進んでおりました。開墾も幅36^ハの水路を開設し、36^ハを開田し、130^ハの畑を拡張し、何事も順調に進捗しておりましたが、埴科郷の危機は刻一刻と迫つておりました。



現勃利駅

お盆の3日間の楽しい踊りの輪は、最終日の16日には、本部の倉庫に舞台をはって、歌に踊りに漫才に寸劇と、最高に盛り上がりました。最後は、演芸大会に発展し、皆満足気に喜びを分かちあつたそうです。

翌日、団長は、後に起こることを察知したのか団長職を放棄して1人帰国してしまいました。その後、10月に新しい団長を迎えました。

満州の朝は早く、4時には真紅の太陽が滴る血潮のように遙か草原の彼方にその姿を覗かせます。

魔の昭和19年3月31日を迎えました。この日は、団の計画・予算を審議するため代表者会議が本部で開かれまして。その会議を中断して、軍参謀に、「間違つても郷の民が戦争に召集されることはない（開拓団参加者と国の約定）でしょうね」と確認したところ、「戦況が読めない。風雲急を告げる」とのあいまいな答えが返つてきたそうです。

会議会場から戻ると父に召集令状が届いておりました。4月13日午後1時に密山の奥の馬架子の六三四部隊への召集命令でありました。父は、まさかこれが家族との今生の別れになるとは思わなかつたでしょう。

召集後、どこの部隊に配属されどのような訓練を受けて戦闘に参加したか否か定かではありませんが、終戦直後、

ソ連に捕虜として連行され、酷寒のシベリア捕虜収容所に入れられました。

朝早くから夜遅くまで粗末な食事で強制労働を強いられ、多くの仲間が、寒さと飢えで病に倒れ命を落としたそうです。その後、2年の刑期を終えて昭和22年、復員してまいりました。

その時の姿は、カーキ色の軍服を着て、穴の開いた革靴を履いていました。持参したものは飯盒一つ（現在も自宅にある）でありました。父は、心も体もボロボロ状態でしたが、生きて帰国が出来ました。捕虜収容所でのソ連兵の扱いは厳しいものであり、人としての扱いはしてくれなかつたようです。また、ソ連兵の多くが教育を受けていなかったらしく、「日本では太陽が2つ出るか」と聞いてきたので冗談のつもりで「そうだ」と答えたなら納得していたと話してくれました。

父は帰国後、満州・シベリア抑留のことは、ほとんど語りませんでした。ほとんど語りませんでした。乗ったときは、ハーモニカで「異国の丘」を吹いておりました。自分が召集された後、残した家族がどのようになったか誰からも聞くすべがなかつたことに対し常に悶々としていたと思います。昭和50年、父と同郷（松代町清野）で開拓団に参加した姉妹が、家族連れで一時帰国した際、



没した勃利で供養

我が家を訪問してくれました。際の長い道程を歩いての逃避行と悲惨な最期の状況を話してくれました。埴科郷の本体はソビエト侵攻時、佐渡開拓団の後地で自死を選びました。義母（32歳）と幼い2人の兄（6歳・3歳）は死亡（昭和20年8月29日）、姉は中国人に助けられ生き延びましたが、16歳で病死したことが分かりました。

2人の話を聞き終えて、父は、異国に残した家族の無事を願ひ一縷の望みを持ち続けていたと思いますが、やっと決心がついたらしく、後日、4人の菩提を弔いたいとお墓を建立しました。父はそれから5年後の昭和56年69歳で旅立ちました。

平成30年、「ひいばあちゃんには中国にお墓を作った」の著者である元中学校教諭飯島春光氏と出会いました。氏の著書の中に、父が召集された直後の昭和20年8月、満州拓殖公社職員で土地測量のため埴科郷に来られた山本茂雄氏（現篠ノ井在住）が、日本への帰国を前に義母宅に立ち寄

つたとき、義母はしみじみ「夫も召集されてしまい私も日本に帰りたいんです」と言っていたと記されていました。この言葉が唯一義母の最期の言葉であります。残念ながら、この日から3週間後には帰らぬ人となりました。

令和元年、知人で日本在住の中国の方に案内していたとき、身内が理不尽な形で命を落とした惨状と言われている七台河・勃利を訪問し線香を手向けてまいりました。これで亡き父の思いが叶ったと思っております。

私の戦争体験

カ石 中曽根 昭三

力石の中曽根昭三さん（現在92歳）は戦争中に大変な体験をされており、戦争を知らない今の人達には是非とも残しておきたい貴重なお話を考え、このたびご本人の了解を得て発表させていた、だくことにしました。これは「力石を語る会」で話して頂いた時の概要をまとめたものです。

昭和20年4月に日本は本土決戦に備え皇居と指令本部を松代の地下壕に移す計画をしていました。そのため朝鮮人をはじめ近郊の人足を集め突貫工事を始めていました。力石村にも勤労奉仕の人足を出

すよう命令がきたのです。村の各組から選抜され、5人が行くことになりました。

私の地元からは父が出る事になったのですが、体調を崩し急に長男の私が出る事になった訳です。思えば16歳で今の高校生の歳でしたが、幸い体が大きい方で体力もあつたので多少の不安もありましたが、先輩のおっちゃんと一緒に勇んで出かけました。その時同行した人は山崎けい一氏、萩野実也氏、高島春夫氏、山崎尊氏と私とで5人でしたが大工の中沢さんともいたことを松代へ行ってから知りました。

思い出すままに述べますが、象山壕は3本の地下壕を建設してました。坑道はイ、ロ、ハと呼ばれており私達が配属になったのはロの場所です。天皇の御座所建設のための地下壕でした。作業は30分ほどの横穴のトンネル内で行われていました。そこでは岩盤に穴を開け火薬を詰め爆破させ、その瓦礫をトロッコに積み込んで外へ運び出すのが一連の仕事でした。工事は当時の鹿島組が担当し監督していましたが、爆破作業は主に朝鮮人が担当し、トロッコの運搬は、日本人がやっています。トンネルに入って爆破作業をする作業員をトンケン隊などと呼んでいました。私は作業員の中で一番若いことに驚いていましたが、監

督者から指示されたのは雷管の運搬作業でした。箱に入った雷管を担いでトンネルの中の爆破現場まで運ぶ仕事です。爆破があるとトンネルの中は排煙や粉塵で何も見えなくなるのですが、誰もマスクなどしておらず黙々と作業をしていました。運搬作業は1回毎に確認することになっていました。一緒に行ったほかの仲間がトロッコへの積み込みや運搬作業でした。作業は8時間毎の3交替制でした。

爆破作業を見たことがありますが、はじめに岩盤に抗削機で穴を開けてそこへ雷管を入れ、その穴に粘土を詰めてから爆破となります。その粘土を捏ねる作業も手伝ったことがありました。勤労奉仕で来ていた作業員は近くの町村からの人が多いように見えました。作業員の宿舎は近くに飯場が作られており朝鮮人も一緒に泊まっていました。その飯場は力石から行っていた大工の中沢さんが作ったものと知りました。

作業員の食事は主に押し麦ご飯で栗飯も食べました。おかずは干物や煮つけなどが出ました。昼食はいつも梅の入った麦飯弁当でした。夕飯のとき朝鮮人はよく集まって白米の旨そうな料理を食べていたのが気になったものです。奉仕期間は15日間でしたが何日か経って力石から中曽根義助さんが陣中見舞いに煎り

豆をたくさん持ってきてくれました。あの時は皆が喜び合いつ瞬く間に豆を平らげたことが印象深く残っています。若いころでしたから指定の期間を無事終えて村に帰ったときは、皆が喜んでくれて村の長老から何か慰労の心付けを頂いたことを覚えていません。

その後終戦になって象山壕は未完成のまま戦争の遺産となりましたが、あのころの日本人は短期間にとってもない工事をしたものだと思っております。

父が残した軍隊手帳

上山田温泉 鈴木 桂子

大正8年1月8日生まれの父は、存命なら現在102才です。先日、仏壇の掃除をしていた時に父の「軍隊手帳」が出てきました。明治・大正・昭和それぞれの天皇の存在、天皇を支える軍人の心得が綿々と書かれています。

個人の意思や事情などは考慮されることなく、召集令状が届けば身体検査を受け入隊しなければならぬ。今考えるところとても理不尽なことです。父が北千島に1年3カ月駐留した時には寒さと飢えに苦しむ、皮ベルトや革靴を煮て食べたり、メリケン粉に砂を混ぜてまんじゅうにして食べ



軍隊手帳

たりしたことの話。また北海道厚岸沖で魚雷を受けて船が沈没し、大勢が戦死したが、戦艦が大きな渦とともに沈んでいく時、父の脳裏に武水別神社が鮮やかに現れ泳げない父に板キレ(を)を見つけたせてくれ、それにしがみついて助かった話。そしてまた満州北支でゲリラ(赤い札を額に貼り、その札を燃やし灰にして食べると切られても撃たれても死なないと信じている集団)の襲撃を受け、九死に一生を得た話など、晩酌をしながら話してくれたものです。今はコロナで多少の束縛や不自由はありますが、幾多の先人が身を挺して日本を守ってくださったおかげで今私達は生きています。戦った人、本土で貧困生活の中、家族を守った人、苦しかった時代へ思いを寄せ、犠牲となった人々へ哀悼の意を表したいと思います。

「平和」たった2文字ですが何と重い2文字でしょう。

コロナ対応で自粛していた

主催 千曲市公民館運営協議会

成人講座 8月から開講!!

受講資格 市内在住または市内事業所に勤務している方(在住地区以外の公民館の講座も受講可能)。また、同じ講座を継続して受講する場合は、3年までです。

申込期間 4月に募集を終了しましたが、数名の受け入れが可能な講座もございます。表を確認し各館に直接お問い合わせください。

申込方法 4月に受講申込された皆さんには、各公民館から開講日・日程・受講料について連絡します。

受講料 1講座 年間12回以下の講座1,500円⇒1,000円、年間13回以上の講座2,500円⇒2,000円(ただし、教材費は実費負担) ※受講料の減額は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う、開講日の順延及び開講回数の変更に伴う対応です。

問い合わせ	屋代公民館	埴生公民館	稲荷山公民館	八幡公民館	戸倉公民館	上山田公民館
	272-0234	272-0055	272-1009	272-1076	275-1490	276-5842

会場	講座名	開設日	時間	定員	追加募集	回数	講師(敬称略)	備考
屋代公民館	ミニボール腹筋トレーニング	8月12日開講式 第2・4水曜日 ※その他追加日程あり	13:30~15:00	20	-	17	長野市 塚田 佳代子	ミニボールを使ってお腹周りの脂肪を解消しましょう!
	Let's sing a song. みんなで歌いましょう!	8月4日開講式 第1・3火曜日 ※その他追加日程あり	13:30~15:00 ※午前開講日あり	16	2	20	稲荷山 内山 由香	童謡・唱歌・昭和歌謡・世界の民謡、そしてオペラアリアまで♪
	ふるさと千曲市の草木に学ぶ	8月12日開講式 第3月曜日 ※その他追加日程あり	13:30~15:30	20	-	12	長野市 高見沢 茂富	千曲市の草木の特徴を深く知り、素晴らしさを感じましょう!
埴生公民館	ボディメンテナンス☆快活体操	8月4日開講式 火曜日に実施	13:30~15:00	25	-	20	長野市 塚田 佳代子	軽快な音楽にのせて体を動かし心身ともにリフレッシュしましょう!
	おりがみ	8月5日開講式 第1水曜日	10:00~12:00	15	-	7	杭瀬下 青木 百合子	やさしい折り紙から始めます
	歌声あわせて! 愛唱歌	8月18日開講式 第1・3火曜日	10:00~11:30	40	-	10	上山田 田島 仁	懐かしい歌などの「愛唱歌」をみんなで声をあわせて歌いましょう!
稲荷山公民館	リンパケアと健康体操	8月3日開講式 第1・3月曜日 ※その他追加日程あり	13:30~15:00	35	-	16	坂城町 栗原 薫	リンパマッサージと健康体操で元気な体をつくりましょう
	楽しくリメイク入門	8月26日開講式 第4水曜日	13:30~15:00	15	6	6	屋代 大日方みねこ	大人女子になったら始めよう! 楽しく簡単リメイク!
	楽しく川柳	8月18日開講式 第2火曜日	13:30~15:00	15	2	6	屋代 近藤 魁風	楽しく! わかりやすく! 川柳を学びましょう!
八幡公民館	体幹トレーニング&ストレッチ	8月12日開講式 第2・4水曜日	19:10~20:10	30	-	15	長野市 太田 靖子	ゆっくりとした動きの中で、しっかりと筋肉を動かし、筋力と柔軟性を上げるクラスです
	楽しい大人の習字教室	8月4日開講式 第1・3火曜日	13:30~15:30	12	-	15	八幡 杉浦 玉雪	習ったことのない方でも大丈夫。書道を基礎から学びましょう
	男の料理教室~旬の食材を使った簡単料理~	8月5日開講式 第1水曜日	19:00~20:30	12	-	8	八幡 鈴木 土記大	旬の食材を使った簡単料理にチャレンジ。女性も歓迎です
戸倉公民館	木彫	8月4日開講式 第1・3火曜日	13:30~15:30	20	-	15	上田市 谷井 一雄	木彫も指先を使い、考えながら彫ることで脳の活性化に繋がります。認知症予防になりますよ!
	はじめての囲碁	8月18日開講式 第2・4火曜日	10:00~12:00	20	10	15	若宮 宮城 靖夫	関心があったら参加してみよう。易しく囲碁を始め、右脳の動きを良くし楽しみます

会場	講座名	開設日	時間	定員	追加募集	回数	講師(敬称略)	備考
戸倉公民館	リンパケアと健康体操	8月4日開講式 月1回火曜日	10:00~11:30	20	-	10	坂城町 栗原 薫	痛みやムクミをなくし楽なカラダを作ります。始めた日から筋肉は育ちだしますよ
	誰でも簡単ストレッチヨガ(イスヨガ)	8月5日開講式 第1・3水曜日	13:30~15:30	20	-	15	新田 西山 木実	誰にでもできる簡単なストレッチ、ヨガです。楽しく体を動かして健康になりましょう
	太極拳	8月5日開講式 第1・3水曜日	13:30~15:30	31	-	15	磯部 小出 義宗	太極拳の基礎。立つ事で芯の健康を学びます。腰痛・膝痛の克服の技、根気があれば年齢不問
	茶道	8月5日開講式 第1・3水曜日	19:30~21:30	12	-	15	なごみ会	一服を美味しく召し上げて頂けるよう、共に学びましょう
	いけばな	8月12日開講式 第2・4水曜日	13:30~15:30	15	5	15	千本柳 米澤 好恵	いつでも、どこでも、誰にでもいけられるよう、四季の草花を使って楽しみましょう!
	パッチワーク(手芸)	8月6日開講式 第1・3木曜日	10:00~12:00	15	-	15	磯部 竹内 道枝	指先を動かすパッチワークは、脳トレにも最適。世界に一つだけの作品を作りませんか
	洋菓子	8月6日開講式 第2・4木曜日	19:30~21:30	8	-	15	桜堂 小池 勇吉	楽しいやさしい菓子作り、失敗しないコツを教えます
	初心者向け絵画	8月7日開講式 第2・4金曜日	10:00~12:00	16	-	15	八幡 若林 吉彦	デッサン・水彩画・油絵の初心者入門コースです
	着物着付け	8月7日開講式 第2・4金曜日	19:30~21:30	20	-	15	きもの着付 すみれ会	習った事のある方もない方も、気軽に一緒に着物を楽しみましょう
	上山田公民館	料理	8月4日開講式 第2火曜日他	12:00~15:00	15	-	9	上山田温泉 若林 健二
うたごえ教室		8月27日開講式 第4木曜日他	9:30~11:00	30	17	12	上山田 田島 仁	うたの好きな仲間、集まれ!!
茶道		8月8日開講式 火曜日他	9:30~12:00 他	25	3	12	上山田温泉 飛田 民子	笑顔と一服のお抹茶でおもてなし
ヨガ		8月7日開講式 第1・3金曜日他	10:00~11:30	35	11	12	新田 西山 木実	心と体の健康をキープしましょう
かんたんダンス・はつらつ体操		8月12日開講式 第2・4金曜日他	10:00~11:30	20	12	12	カ石 酒井 美代子	楽しく身体を動かし、いつまでも若々しく、はつらつとした生活を♡
水墨画		8月1日開講式 第2土曜日他	10:00~12:00	15	5	12	千本柳 竹内 せつよ	心落ち着けるひと時を過ごしませんか
リンパケアと健康体操		8月27日開講式 第2・4木曜日他	10:00~11:30	30	-	12	坂城町 栗原 薫	気持ちよくカラダを動かして元気になりましょう
楽しく手習い(書道)		8月17日開講式 月曜日に実施	10:00~11:30	15	-	12	長野市 橋詰 辰男	楷書・草書の基礎を学びます
楽しく俳句(基礎)作り	8月3日開講式 月曜日に実施	13:30~15:30	20	4	12	屋代 青木 美子	俳活はじめてみませんか?	

第18回 更埴地区文化祭中止のお知らせ

11月7日(土)・8日(日)に予定していましたが更埴地区文化祭は、会場である更埴文化会館が昨年の台風災害から復旧しておらず使用が難しいため、今年度も中止とさせていただきます。

発表・作品展示を希望される皆様には大変申し訳ありません。

ご理解いただきますようお願いいたします。



※「もつと知りたいふるさと」のバックナンバーは千曲市ホームページでご覧になれます。

もつと知りたいふるさと

75

八幡代地区の曳き屋台と花屋台

八幡の代地区に古くから伝承される曳き屋台が保存されていることをご存じでしょうか。

仲秋祭（9月14日）と代地区が当番の時の大頭祭（12月10日から14日）に、代地区曳き屋台保存会「雲井連」の花屋台と共にお囃子を奉納しております。

雲井連とは代地区にある橋の名称「雲井橋」からきております。
花屋台とは後に紹介しますが、曳き屋台が古く修理が必要なことと、運搬出動が大変なので代わりに奉納している屋台です。

さて曳き屋台については今から320年程前より代地区が鎮守の武水別神社八幡宮の仲秋祭、新嘗祭の「練り物」として奉納されてまいりました。
今の曳き屋台は天保11年に



お囃子の奉納

建造されたと古書により判明し、製作費用は20両3分3朱と伝えられています。柱はカヤの木でつくられ、彫刻類は豪華です。さらに歴史ある古い曳き屋台は東筑摩郡麻績村へ売り渡してしまつたのこ

とです。
舞台楽屋には太鼓2人、大鼓1人、笛2人、三味線2人、鼓1人、唄1人、都合9人、

舞台には踊り子2人、踊り子は8才位から15才までの少女を選び、明治19年まで盛大に続きました。やがて時勢により人形を飾ることになり、昭和4年まで43年間続きました。翌年、曳き屋台の奉納をやめることになってしまいました。なぜなら、武水別神社の新しく作られた中鳥居が以前より小さく建設されたため、曳き屋台は鳥居の下を通り過ぎなくなつたと聞いております。その結果、花屋台（か

つぎ屋台）が代替となり戦前まで続きました。
花屋台とお囃子については昭和30年に発足し続いています。花屋台は4ト車に乗せて、その中では大鼓・大胴・大革・鼓・三味線・笛の囃子方が乗



舞台の豪華な彫刻

って演奏します。

昭和31年、八幡宮司松田千里氏のご高配により、文部省並びに長野県文化財専門委員による重要文化財としての調査がありました。残念ながら舞台・お囃子・楽器等々の製作年代等が不詳のため、重要文化財、無形文化財の指定には至りませんが、地方の文化的価値は充分あるものとして高く評価されました。

囃子方の養成は明治35年から18才になると習つたと聞いています。また、先代の方々には小川村や、信級等、他の地域からも依頼があり、囃子方様式を伝授に行つたと聞いています。

昭和60年、代地区の愛好者

同志が相寄り、舞曲が自然に消滅していく様子を見て、この際永久に後世に引き継ぐべきだと相談を重ねた結果、「代地区保存会」が発足しました。

現在、曳き屋台も長老の皆様の協力で組み立てられ、公民館の倉庫を改造して保存されています。祭りのたびに組み立てる方法を知る人が少なくなつていきましたので、長老の方々がいなければ完成できませんでした。

令和元年に宝くじ助成金を受けて、花屋台と半纏等を新調して奉納しました。

最後に、昔一農村の集落ながら先人の偉業とご苦労に感謝しつつ、少子化といえども後継者を養成し、大事に継承

していきたいと思います。ご協力を宜しくお願いいたします。

保存会会長

金井良男



「雲井連」の皆さんと新調した花屋台

編集後記

旧暦では8月は落葉が始まる時期であることから「葉月」と呼ばれています。まだまだ暑い日が続いています。そして、マスクの装着が一段と暑い夏にしているようです。

今月号の特集は「語り継ぎたいわたしの戦争体験」です。戦争体験者が高齢化し、原稿依頼が大変でしたが大勢の方々の投稿をいただき発行に至りました。戦争の悲惨さや

戦争中の困難な生活を記録に残し、伝えていきたいものです。

ところで、今年は夏の風物詩の戸倉上山田温泉夏祭りや千曲川納涼煙火大会が中止となり、寂しい限りです。

しかし、コロナ禍で生まれた時間を、庭で花火を楽しんだり、時には先祖や戦争について語り合うなど、ゆっくりと家族で過ごしてみたいかがでしょうか。

(上山田 M)